



創立60周年記念式典 式辞(要旨)

先人への感謝と
学園の更なる発展を祈念する

理事長 木村好成



國學院大學
栃木中学高等学校
〒328-8588
栃木市平井町608
☎(0282) 25111
校報編集委員会

(11月の行事予定)

- 2日 美化の日(中・高)
全校朝礼(高)
生徒会役員立ち合い
演説会・選挙(高)
- 3日 第3回ベネッセ数台共通
テスト(高)
第3回入試説明会(高)
第6回入試説明会(中)
- 4日 1・2年進研模試(高)
全校朝礼(中)
第2回漢字検定
- 6日 第2回英検2次(中・高)
- 8日 校外学習(中)
- 13日 第4回入試説明会(高)
- 15日 2年小論文講演会(高)
- 21日 第5回入試説明会(高)
- 23日 3年全統ブレ共通テスト(高)
- 26日 第1回入学試験(中)

本日、栃木市長大川秀子様他、多数のご来賓をお迎えして、教職員並びに学生・生徒等が、一堂に会して、学園の創立六十周年記念式が挙行できますことを、理事長として、誠に嬉しく思います。

学園のあゆみ

さて、凡そ、学園が創立記念日を祝うことの意義は、関係者一同が、創立の日に立ち返り、今日までの来し方を顧み、想いを新たにすることにありと思えます。

顧みますると、本学園の歴史は、昭和三十五年、一九六〇年の四月十三日の高等学校入学式に、男子六十九名・女子六十名、併せて一二九名の第一期生を迎えたことに始まります。以来、六十年を経ます間に、短期大学・高等学校・中学校・幼稚園を擁する総合学園に発展して、本日ここに、創立六十周年を祝う日を迎えたのです。

高等学校創設の機縁は、当時の大島定吉市長の市政の下で、戦後の学制改革で設けられた新制中学校の修了者の高等学校への進学に対応するために、市を挙げたの私立高校誘致の要望が高まったことによります。

これに、栃木県神社庁設立十五周年に当たったの記念事業が思考され、当時の県神社庁長佐野五郎唐沢山神社宮司様、副庁長石原重股古峯神社宮司様他の方々のお考えが、神道精神による教育を行う高校の設置と決したことで、栃木市と栃木県神社庁の考えが纏まって、國學院大學理事會への附属高校設置の要請となり、そのことが実を結んで國學院大學栃木高等学校の創設となったのです。校地を選ぶに当たっては、太平山神社の小林敏三郎宮司様のご尽力があったことを申し添えます。

設立に至るまで、また設立の後にも、幾多の問題に直面しましたが、関係され

と生徒会館の間の中庭に銅像として立ち、九年前に逝去なさった学園長佐々木周二先生でした。佐々木先生は、学園創立の当初から四十九年の長きに亘り、本学園の経営に尽瘁されました。則ち、初代高校長に就任され、昭和三十八年に高校の三期生が入学することで、学園経営の基盤が定まりますと、経営の母体を國學院大學から國學院大學栃木学園に移行させ、ご自身は國學院大學理事・國學院大學久我山中高等学校校長の役職を兼ねながら、栃木学園の常務理事に就任されました。また翌昭和四十年に二杉幼稚園を開園し、初代園長に就任されました。翌々年の昭和四十一年には短期大学を県下初の短期大学として国文科・家政科の二学科で開設し、常務理事・学監に就任されました。さらに、平成八年に中学校を設置し、私

が平成六年四月から、佐々

木周二先生の國學院大學理事長ご就任を機に、二代目の高校長に任命されたことから、中学校長を兼ねることになりました。

佐々木周二先生は、國學院大學の建学の精神である「国体の講明」・「徳性の涵養」を顕彰することに加え、ご自分の教育への熱い想いを形に表され、今日此処に見るような学園を築かれたのでした。

学園の
更なる発展に
力を尽くす

今こそ、私たち日本人は、あらためて国の始まりから今日までの国の歩みを知り、日本人の精神を受け継がれている日本精神による、国の力と個々人の力を、さらにさらに伸ばさなければなりません。そのことが、國學院大學の建学の精神である「国体の講明」・「徳性の涵養」を広く伝搬することになるのです。

学園は創立以来継続的に施設・設備の拡充に力を注いできましたが、常に最高水準の教育環境を維持し、国家有為の人材育成に努力してきました。このことに、さらに力を尽くすために、

近年は、ラグビー場の人工芝敷設工事と、高校生の自宅外通学者で部活動に精進する生徒のための学寮である「好文寮」を建て、目覚ましい活動をしているラグビー・野球・柔道部等の運動部のさらなる活動を助成するための施設としました。

現在、学園に学ぶ学生・生徒の数は、短期大学生四八六名、高校生一、三三三名、中学生一、一八名、幼稚園児一、〇名で、併せて二、〇六七名。卒業生は、短大、高校、中学、幼稚園を加えると総数六六、一九八名を数えます。

これら多数の学園で学び果立った者たちが、それぞれ立場にあつて、国のため社会のために学園で培った精神をもって、社会に貢献していることを考えますと、本学園が存在する意義は、極めて大きなものであると申せましよう。

創立60周年創立式典・奉告祭 更なる躍進を目指して



祝詞奏上に続き、「浦安の舞」が奉納された。これは「天地の神にぞ祈る朝なごの海のごとくに波たため世を」という昭和天皇の御歌に、多忠朝が曲をつけた神楽である。舞を奉納する舞姫は本校箏曲部員が担当した。

令和2年10月9日(金)、四十周年記念館にて、学園創立60周年奉告祭及び記念式典が行われた。

本学園では第一回入学式が昭和35年4月13日に挙行され、同年10月9日に本館落成式が挙行された。本校ではこの10月9日を創立記念日と定め、式典を行っている。

記念式典に先立ち、奉告祭が小林一成太平山神社宮司を斎主として行われた。奉告祭は創立以来続く神事で、神道精神と神道の作法に則り、神前で1年間の無事を感謝し、学園に集う人々の平安を祈るものである。



感染拡大予防を意識した座席

斎主・祭員による拝礼の後に、法人理事・監事・顧問・評議員・父母会・同窓会・学園職員を代表して木村好成理事長、続いて中村幸弘短期大学学長、青木一男中学・高等学校長、栗原和子幼稚園長、短期大学学生会長・高等学校生徒会長・中学校生徒会長がそれぞれ玉串を奉奠し、各教職員・学生・生徒は代表者による

合わせて列拝した。最後に斎主による一拝をもって、厳粛な雰囲気の中、奉告祭は終了した。

続いて挙行された創立記念式典では、木村好成理事長の式辞の後、40年勤続表彰者をはじめとして、計十一名の短期大学・高校・中学・幼稚園の教職員が表彰を受けた。



箏曲部による浦安の舞

永年勤続 表彰者

30年勤続
横地 夏彦(高校教諭)



横地 夏彦

20年勤続
津田 恵美(中学校教諭)

鶴澤亜希子(高校教諭)



津田 恵美



鶴澤亜希子

10年勤続
菊元 靖(高校教諭)
福田 雅一(高校教諭)



菊元 靖



福田 雅一



代表教諭の表彰

関係物故者慰霊祭

創立記念式典に先立って10月8日(木)に関係物故者慰霊祭が、小林一成太平山神社宮司を斎主として斎行された。

慰霊祭は五年ごとに行われ、昭和35年の学園創設以来の関係者で、物故せられた学園創立功労者、法人役員、評議員、顧問、教職員、卒業生及び学業半ばに没した方々の御霊が安らかになることをお祈りするものである。記念式典と同日に行われていたが、新型コロナウイルスによる感染防止のため、式典前日に太平山神社で青木学校長などの代表



御霊安らぬらんことを祈る

者が出席して行われた。平成27年10月以降物故せられた関係者は、短期大学教員三柱、高等学校教員五柱、学園職員二柱で、創立以来の物故せられた関係者合わせて九百七十四柱をお慰めた。

記念品「ふくろう像」

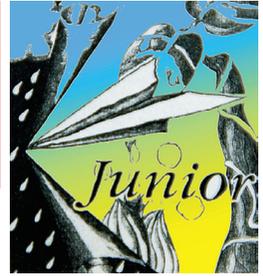
学園創立60周年記念品として、「ふくろう像」が教職員・生徒に配布された。この作品のモチーフである鳥は、学問・英知の象徴として知られ、教育・学問の府である学園の記念品としてふさわしいものである。



友情のふくろう像
(本校写真部員による撮影)

また、佐々木周二先生の像が創立25周年を記念して建立された後、銅像の制作者である日本芸術院会員であり本学短大教授であった三坂耿一郎先生が、昼は生徒に囲まれている像が、夜は寂しいだろうということで、鼻を傍らに持たせたという佐々木先生と三坂先生の友情のエピソードもある。今回の記念品は三坂先生の弟子であり、本学園短期大学名誉教授・二科会会員である鷺崎直子先生によるものである。

実り多き秋に 全学年が一致団結



昨今のコロナの影響で生活に変化が起きているが、本校においても多くの行事が中止と
なったり、例年とは違った形での実施となったりしている。そのような中、中学生たちは、
学習に、学校行事に、部活動に、元気に取り組んでいる。

保育実習実施

中学3年生

10月2日(金)、3年生が二杉幼稚園を訪問して園児とふれ合う保育実習が実施された。例年は生徒たちが各教室に入って園児たちとふれ合う形式をとっていたが、今年度はコロナ感染予防のため、接触を制限しての実習となった。それでも生徒たちは限られた時間と機会の中で園児たちとの交

3年生発表会・レクリエーション

9月11日(金)、大ホールにおいて3年生の発表会が実施された。今年度は文化祭が中止となった関係で、3年生の発表の場がなくなつたため、その代わりに舞台として今回の会が開催された。3年生が自分たちで台本を考えた劇を後輩たちの前で演じ、会場は笑い



カツラを投げて笑いを誘う

感動の渦に包まれた。発表会の後は、ラグビー場においてレクリエーションが実施され、各学年合同でドッジボール大会が実施された。先輩・後輩が同じチームで活動することから、生徒たちは学年の枠組みを超えて一緒に楽しむことができた。



園児とふれ合う生徒たち

実習が終わった後も生徒たちは楽しかった実習の様子を互いに語り合っており、生徒たちにとっては非常に良い経験になった。

早川 花南

(3年1組)

最初の頃の練習の時はまだ学年が一つになれてなくて、うまく練習が進まず、本番までに間に合うかどうか不安になったりした。でも少しずつ班の中でも意見を出し合って、見てくれるお客さんをどう魅了するか、笑わせるかなどを考えるようになった。発表会の日が近づくにつれ、少しずつ学年が一つになっていくように感じた。そして本番の控え室で、みんな静かに劇を聞いていて、お客さんの反応を感じて頑張ろうという気持ちになれた。みんなも同じように思っているようだった。



先輩とともに戦う

レクリエーション後、後輩たちの中から「自分たちも先輩たちのように、行事の立案・実行をやってみたい」との声があがってきており、3年生の頑張りは、後輩たちにも良い影響を与えたようだ。

以下に生徒の感想を掲載する。

新しいお茶
本校では国語の授業の一環として、伊藤園が主催する「伊藤園おーいお茶新俳句大賞」に生徒の作品を毎年出品している。
まず、授業で俳句とはどのようなものか、どんな季節があるのかなどを学んだ後、冬休みの期間を使って自分の身の回りのことなどを題材に俳句を詠んでくる。今年度はコロナの影響もあって、受賞作の発表が遅れたが、中学校から以下の生徒の作品が入選した。

・佳作特別賞
鈴木 貴晃(2年1組)
「ゆらゆらと
ゆれる落ち葉を
ひろう風」
・佳作
坂本 悠歩(3年1組)
「たんぽぽが
いろんな旅を
始めたよ」
大石 桃萌(2年2組)
「通学路
白い吐息
はしゃぐ子ら」
なお、佳作特別賞の作品はお茶のパッケージに印刷される予定となっている。

教務日誌抄(中学)

- (10月)
1日(木) 全校朝礼
2日(金) 英検・保育実習
3日(土) 補填授業
5日(月) 選挙管理委員会
6日(火) 検尿
9日(金) 創立記念日
10日(土) 第4回入試説明会
17日(土) オープンスクール
20日(火) 21日(水) 補填授業
22日(木) 中間試験一部実施
25日(日) 第5回入試説明会
30日(金) 生徒会立ち会い
31日(土) 中学総合学力調査

美術部「アートギャラリー」



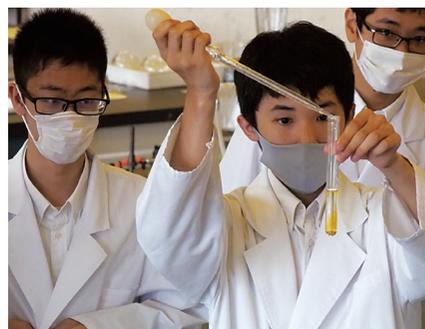
茶道部「和敬清寂」



ミュージカル部「Dream again!」



箏曲部「箏で織りなす幻想世界」



化学部「科学実験を体験しよう」

発表者の感想

展示の部

【インターアクト部】

発表を準備するにあたり研修会に参加したりワールドワークをして考えを深めました。ただ情報を伝えるだけではなく、見学に来てくださった方にも参加してもらえようように、クイズ形式にしました。

(3年 金子 美朱)

【美術部】

今年は何年とは異なる形式で、かつ時間の余裕がない中で発表を迎えることとなりました。しかし、部員一同が個性豊かな作品を創り、披露することができ本当に良かったです。

(3年 中村 彩花)

【華道部】

基本花とは違い、自由花には決まった形がなく、主の花やあしらいの花を選び、どのように生ければ美しく見えるのかと考えながら生けるところに苦心しました。

(2年 松永 琉羽)

【天文部】

全体的に賑わっていました。特にプラネタリウムが大盛況でした。展示では天体写真が人気だったので、次回は銀河の写真を多くして来場者を増やしたいです。

(3年 戸部 聡太)

【化学部】

当日の三つの実験は大盛況でした。予定通りにいかない部分もありましたが、

(2年 田村 珠奈)

文化部発表会 実行委員長



組衣 3年2年 結衣 森田 丁

今年で59回目を迎えるはずだった国学院祭は、新型コロナウイルスの影響で、急遽文化部発表会に変更となってしまいました。この初めての試みに対し、どう企画し、動

予想以上の良い反応をいただきました。さらに化学部を発展させていきたいです。

(2年 澤西 眞)

【歴史部】

「歴史」というものに、いかにして興味を持ってもらうか。それを第一に考えながら準備をしました。日本史・世界史に関わらず、歴史部らしい展示ができるように心がけました。

(1年 清水 麻由)

【写真部】

運動部の練習再開後の活動を撮影して発表しました。コロナ禍の中、ひたむきに前を向いて頑張る姿を撮ることができました。

校内競技大会

10月7日(水)に、校内競技大会が実施された。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、日程の縮小や種目の変更を行なったの開催となった。生徒たちはクラスTシャツを身につけながら、一丸となって生き生きと試合に臨んでいた。今大会では文理コース2年生の6組が男女ともに優勝を果たし、アベックで1位に輝いた。ここでは、各学年で優勝したチームキャプテンの競技大会を終えての感想を掲載する。

1年	男子 優勝 B4A	2位 B5B	3位 N1・B1B
女子 優勝 B3	2位 B4	3位 B1・B5	



文理コース4組 後藤 颯汰

今回の競技大会では、クラスの団結力により優勝することができました。初めはスポーツの苦手な人が楽しんでプレーできるかが不安でしたが、一緒になって声を出したり、楽しくできてとても嬉しかったです。改めてスポーツの良さを感じられる競技大会でした。



文理コース3組 マツナガ来沙

競技大会では、クラス全体が団結することができたので優勝することができました。と思います。感染症対策でいろいろなことが制約された中での学校行事でしたが、良い思い出を作ることができて、嬉しかったです。来年も優勝できるように頑張りたいです。



1年男子サッカー



2年女子バレー



2年男子ソフト

2年	男子 優勝 B6A	2位 B4A	3位 B1B・B1A
女子 優勝 B6	2位 B5	3位 S1・G1	

文理コース6組 石川 峻士

「二致団結」、これがこの球技大会で優勝できた秘訣だと思えます。勝負にこだわりのながらもクラスで助け合い、楽しく試合をすることができました。応援してくださった皆さんから、たくさん力ももらいました。本当にありがとうございました。



B2-6アベック優勝!!



3年女子バレー

3年	男子 優勝 B1A	2位 B6A	3位 S2・A3
女子 優勝 S12A	2位 T2	3位 A1・B4	

文理コース1組 大橋 応寛

私たちは優勝を目標に練習から全力で取り組んできました。うまくいかないことも多く、不安が募りました。しかし、大会では、チーム一丸となり、守備ではカバールし合い、攻撃では打球が繋がりが、練習以上の力が出せました。最高のメンパーと優勝することができて良かったです。



文理コース6組 川島麻優佳

6組はみんな運動神経抜群で、試合の直前は緊張しつつも、みんな自信に満ちあふれていました。不安な時はチームメイト同士で声を掛け合い、点数を決めると、褒め合いながら、どんな強い相手でも協力することができて嬉しかったです。



優勝することを目標に練習してきました。本番では、みんな声を掛け合っていました。決勝戦でフルセットになったとき、とても焦りましたが、無事優勝することができて良かったです。とても良い思い出になりました。

Sコース1組 狐塚 胡桃





野球部 3年ぶり6度目の秋季県大会優勝

優勝の喜びを分かち合う選手たち

犠牲打を打つ樋口選手

優勝旗を受け取る浅田主将

第73回秋季県高校野球大会（水）、宇都宮清原球場ほか先に実施された交流戦での敗戦により、今大会はノーシードでの船出となった。序盤戦、苦しみながらも徐々に落ち着きを取り戻し、試合を重ねる毎に成長した選手たちは、3年ぶりに決勝戦に進出した。

チームの目標
「準備の徹底」を体現
決勝戦は、立ち上がりのミスから失点し、4点を先行される苦しい試合展開となったが、4回に関凛斗選手のフライングプレーでアウトを取ると、これを機に波に乗り、反撃を開始した。3点を追う6回、林尚輝選手の右越え2点適時打や樋口慧汰選手の左犠飛などで一挙4点を奪い逆転に成功した。直後に同点とされたが、9回表、1死2、3塁のピンチをスクイズで加点を試みた相手の攻撃を、本校のバッテリーが併殺で切り抜け、無得点で抑え流れを引き寄せた。その裏、安打と犠打で2死2塁のチャンスで4番最上太陽選手がセンター前ヒットを放ち、サヨナラ勝利を収めた。

柄目監督は、「準備を徹底し、あきらめずに我慢強

く戦う力を持つているからこそ劣勢の展開を勝ち切る事ができた」と話した。

この結果、10月24日から千葉県で開催される関東大会への出場が決まった。

▽結果 優勝

優秀選手に6人が選ばれる

林尚輝投手（B2年）
コントロール抜群のエース
「自分のピッチングで流れをもってくるようにする」

浅田光太郎主将（B2年）
チームの精神的支柱
「やるべきことを徹底し78人で甲子園を決めた」

関凛斗内野手（B2年）
5割6分5厘で首位打者
「練習試合で打てなかった分、成果が発揮でき嬉しい」

海老原大介外野手（B2年）
小山高戦では延長の末、逆転打を放つ
「自分の役割を全うしチームの勝利に貢献したい」

1回戦本校8対6鹿沼
2回戦本校4対2那須拓陽
3回戦本校5対4小山
(延長11回)
準々決勝本校14対7佐野日大
準決勝本校9対4青藍泰斗
決勝本校6対5石橋



柄目監督(左)と五十嵐部長(右)



樋口慧汰内野手（B2年）
バッティングの要
「野球を思いっきり楽しみたい」

最上太陽内野手（B2年）
優勝を決めたサヨナラヒットを放つ
「挑戦者の気持ちを忘れずに戦いたい」

選手たち：最上選手、樋口選手、海老原選手、関選手、浅田選手、林選手

十有余年にわたり、野球部部長・監督連盟役員として、球児の育成並びに大会運営に尽力した功績をたたえ、栃木県高野連から表彰を受けた。

3年連続全国大会出場決定 女子ラグビーセvens

第3回全国U18女子セvens大会関東ブロック予選、9月22日（火）、栃木市総合運動公園陸上競技場。

学校2、クラブ4の6チームが出場し、2ブロックに分かれてリーグ戦を行い、それぞれの1位が全国大会へ駒を進める。本校はB組で初戦、ブレイブルーヴ（東京）から中平あみ選手（B3年）の3トライなど5トライを奪い31対0となった。続く茨城ワイルドローズ（茨城）には佐々木理子選手（B3年）、石垣凜子選手（T3年）の2トライなど10トライを奪い、62対0といずれも圧勝し、全国切符を

県大会ベスト8 男子テニス部

栃木県高校新人テニス大会、9月19日（土）、栃木県総合運動公園。

野口説亜（B2年・佐々木颯（A2年）ペアはダブルスで出場し、56ペア中、ベスト8に輝いた。全ての対戦が接戦になりながらも、野口選手は強烈なフォアハンド、佐々木選手は得意のボレーを活かし戦い切った。



「全員ラグビー」で全国の切符をつかんだ女子ラグビー部

手に入れた。

小坂海歩主将（B3年）は、「二人ひとりの強みを生かし、全国優勝目指して頑張ります」と話した。

第3回全国U18女子セvens大会は、10月23日（金）25日（日）に熊谷ラグビー場で開催される。



佐々木選手（右）と野口選手（左）

第3学年小論文講演会

9月26日(土)学園教育センターにおいて、希望者を対象に、第3学年小論文講演会が実施された。

講師には現在「学研・進学情報」の監修をされている学研教育みらいの大堀精一先生を招き、志望理由書の書き方や最新の小論文のトレンドなどをお話しいただいた。生徒たちは受験に向けて真剣な表情で講演を聞いていた。

講演のあとは、志望分野ごとに5グループに分かれ、個別相談会を行った。相談

教育実習終了

9月28日(月)から教育実習が始まり、10月17日(土)に終了した。実習生は、初めて教員としての立場で教壇に立ち、やりがいや厳しさを学び、自分の目標を新たにしようである。

會田優菜教生は、「一時間一時間の授業を準備するときの思いや、生徒の反応を見ながら授業する楽しさを知ることができました。この経験を今後にしつかりと活かしたいです」と母校



會田教生による授業

での短いながらも充実した時間を過ごし、実習ができた喜びを噛みしめていた。

真剣に耳を傾ける



会では、より具体的な話で生徒らの意欲を高めていた。

「国栃チャレンジ」実施

10月11日(日)本校キャンパスならびに学園教育センターにおいて中学3年生を対象に、「国栃チャレンジ」が実施された。「国栃チャレンジ」は、入試本番の雰囲気を感じながら学力到達度を客観的に判定することができる学力診断テストである。

本年度は感染症対策のため、検温・消毒を徹底し、各教室での人数を減らしての実施となった。こうした状況ではあるが、例年を上回る申込みがあった。

オープンスクール実施

10月17日(土)に「オープンスクール(授業公開)」が、感染予防対策の中、実施された。オープンスクールは、中学校、高校ともに普段の授業を受験生や保護者など様々な方にご覧いただく催しである。

生徒たちは少し緊張した様子で授業を受けていたが、参加された方からのアンケートでは、「普段の授業の様子がわかってよかった」「生徒の挨拶が気持ちいい」などの感想をいただいた。



学園教育センターでの受験生の様子

受験生は、本番同様の雰囲気の中、緊張しながらも真剣な表情で試験に取り組んでいた。



受付での検温

第三十一回伊藤園 おくいお茶新俳句大賞入賞

国語の授業の一環として「第三十一回伊藤園おくいお茶新俳句大賞」に作品を応募し、7名が入賞・入選した。

佳作特別賞

岩崎 綾人(S2年)

「曼珠沙華

黄泉との道を

照らしける」

高野 真優(T2年)

引き当てそうな

梅の花」

佳作

小松 陽華(S2年)

平田 瑞弥(S2年)

高島 恰司(T2年)

福田 莉子(N1年)

伊藤 媛香(N1年)

生徒たちはそれぞれ自分の生活の中での小さな発見を、五七五の調べに乗せて表現していた。

なお、佳作特別賞の二人の句は、お茶のパッケージに印刷される予定である。また、入賞作品発表会の動画が該当ホームページで配信されている。

教務日誌抄(高校)

(10月)

1日(木)冬服着用

3日(土) 美化の日

6日(火)検尿②、補填授業

8日(木)3年内科検診①

60周年関係物故者慰霊祭

9日(金)創立記念日

創立60周年記念式典

10日(土)

3年ベネッセ駿台

記述模試

記述模試

31日(土)補填授業

1、2年小論文模試

29日(木)

28日(火)検尿③

27日(水)人権教育

24日(土)

第3回全統記述模試

20日(火)22日(木) 中間試験

19日(月)中間試験一部実施

17日(土)補填授業

14日(水)校内競技大会

13日(火)3年内科検診②

11日(日)国栃チャレンジ